

大山道迷い(2020年2月)

おかしい?と思いながら先頭について行く。道が無くなったところで、先頭も道迷いに同意し元の道に戻った。



解説

大沢分岐先の小ピークを左に巻き気味に進み、左(南)の尾根に入った。梅ノ木は、道なりにずっと直進するはず。おかしいと思いながら後ろをついていくと、地形図と明らかに違う。すごいスピードでゲンゲン下り、行きつくところまで下った。

地形図を見せながらおおよその現在地を示したけれどミス認めない。GPSアプリを起動すると、誤作動で現在地を示していなかった。同行者は先に進む(下る)と言うので、私は行動食休憩を取ると言って座った。ザックを置いて一人で偵察に行き「もう道がありません」と言う。「さっき一休みしたところまで戻りましょう」と声をかけた。山友も地図を確認して登り返すことに同意し、急登を登り返す。

(中略)ミスに気付いても、意見の一致が無いと戻れないことの怖さを認識。(HP参照)

パートナーと離れ離れになって、遭難に至るケースは多い。私は正しいと主張しても意見の一致がないとパーティーとして戻る事は難しい。リーダーは、間違っているという現実を理論で示さないといけな。この時に重要なことは、客観的に説明すること。例えば、地図アプリの現在位置を示す。歩いてきた方向をコンパスで示し地形図との相違を示す。道の形状は登りではなく下っている。等。一つ一つの間違いを客観的に理論的に説明する。これができないとチームはバラバラになってしまう恐れがある。